

## 一般花壇部門

### 総 評

今年のコンクールでは能登半島地震により被害を受けた花壇を修復して花づくりを続けた事例に感動しました。また、「つらい思いをしている人達に少しでも笑顔を取り戻して頂きたい。」との願い込めた活動がとても印象的でした。さらに、オリンピックにちなんだ配色やデザインなど、今年ならではの特徴的な花飾りが見られました。

今年も6月、7月がかなり高温に経過したため、例年どおりの管理では生育が旺盛になり過ぎて姿勢を乱したり、下葉が枯れるなど、咲き疲れた株も見られました。ただし、肥料の種類や量を工夫したり、早めの花摘みや切り戻しを行って生育をコントロールした花壇では、花や葉の色も鮮やかで生き生きと咲き満ちていました。

地域の特産物を活用して独自性を発揮した花壇やこれまでの常識にとらわれない独想的な花飾りのアイデア、さらには、新しい花へのチャレンジなど、自分達の個性に合わせたいろいろな花の楽しみ方をたくさん学ばせていただきました。さらに、ドローンによる花壇撮影やQRコードを活用した花壇情報の発信など、若者が花と緑の活動に関与されていることが感じられ、とても嬉しく思いました。

花壇管理に各種団体を積極的に組み込んだり、コミュニティ活動と花づくり活動を密接に連携させるなど、花のまちづくり文化が着実に定着しており、今後より一層、地域そして各家庭へと進展していく予感に溢れたコンクールでした。

### 最優秀賞評

最優秀賞を受賞した南砺市の「玉成花壇愛好会」の花壇は、大きな花壇を上下二段に分け、それぞれデザインに合わせた管理通路が設けてあり、大空に悠々と浮かぶ雲のような雄大な花々が見るものを圧倒しました。花の輝きはもとより、各種のカラーリーフが上手に組み合わせられ、生き生きとした数々の葉が織りなす爽やかな緑の空間が特に印象的でした。高度な技術に基づいた確かな花壇管理と花壇づくりへの情熱に感心しました。

花壇の左手には森の小道を連想させる花の空間が演出され、花壇の中をゆっくりと歩けば、一步ごとに花の景色が変わる感動的な花壇に仕上がっていました。

(審査委員長 山本良孝)